

# インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No.204

2019年8月28日

発行所 兵庫教育文化研究所  
〒650-0004

神戸市中央区中山手通 4-10-8

## 「人博」の裏側は？ 理科教育部会臨地研修会

8月22日に、理科教育部会の臨地研修を『県立人と自然の博物館（三田市）』でおこないました。参加者は、協力研究所員と研究所員、地域組合からの参加者を含め10人でした。今回は、博物館の裏側であるバックヤードを見学する研修会となりました。

『人と自然の博物館』は、「人と自然の共生」をテーマに1992年に設立された自然史系の博物館です。通称「人博」（ヒトハク）と呼ばれ、県内の小中学校での理科の学習や遠足に利用されています。施設は、国内の博物館では最大級の規模で展示が配置されている「本館」と「研究・収蔵庫棟」で構成されています。今回の見学の中心は、「研究・収蔵庫棟」の収蔵庫でした。

「研究・収蔵庫棟」は1階と2階部分があり、昆虫標本や植物標本の膨大なコレクションを収蔵しており、資料の性質によ

って6つの収蔵庫に分かれています。比較的重たいもので、床が抜け壊れないように1階に「地学系収蔵庫」などがあり、2階には、生物収蔵庫と環境系収蔵庫があります。

まず、1階の地学系収蔵庫では、常設展示されていない化石の標本などを見学しました。アマチュアの化石コレクターが寄付されたものを分類整理しているところですが、大半のものは、「いつ・どこで採集されたのか」という記録がないため「資料価値がない」という説明を受けました。研究目的になる資料を保存するための施設ですが、資料の増加に伴い、広い収蔵庫も狭くなってきているそうです。

2階の収蔵庫は昆虫標本・植物標本を扱っているため、内部は常に摂氏18度、湿度は60%以下になるように設定されており、外部からカビや細菌類を持ち込まないようにするために、二重の扉になっています。膨大な植物標本を分類し検索できるようにするため、インターシップ（高校生版トライやる・ウィーク）の高校生たちが来て標本整理をしていました。学芸員の説明を聞きながら、昆虫標本を自由にさわらせてもらいました。モルフェ蝶は光の当たる角度によって色が変わっていくさまが標本を動かしていくとはっきりとわかり、貴重な経験でした。



ここに収蔵されているコレクションは、いつでも研究者が利用できる人類共通の遺産です。かつて地球に生きていた生物から今に生きる生物のタイムカプセルにしたような、貴重な資料を保存する場所です。未来の人が1000年前にはどんな生物が生きていたのかを調べることが可能であり、その遺産を守るために、災害時には化石や保存資料を守る仕組みになっているなどの説明を受けました。丹波竜の化石や鉱物標本などの展示と同様、収蔵庫の見学も多人数でなければ受け入れているそうです。教職員の研修だけではなく、子どもたちの見学や学習など、その目的に応じて利用も考えられます。

理科教育部会では、毎年、長期休業期間等などを利用して県内の遺跡や博物館などの臨地研修をおこなっています。地域組合への参加を呼びかけますので、興味や関心のある方はぜひ参加されてはどうでしょうか。

